

2025 年 3 月 19 日(水)

春の雪

今朝は、35 期生の高校卒業式を終えたこの時期としては、予想にしない雪模様になりました。

朝 6 時 30 分に永山駅を出発した京王バス(桜 06 系統)に乗った時点ではみぞれ(霰)まじりの雨模様でしたが、団地を過ぎる頃には車体に当たる音が大きくなり、ひょう(雹)に変わりました。バスが東京都立桜ヶ丘公園西口のバス停には近づくこともできないまで路面に雹が積もり、バスは少し離れた場所に停車。やがて聖ヶ丘に近づく頃には、水分をいっぱい含んだ大きな雪の塊が舞い落ちるようになりました。学校に着いてみると、人工芝の緑が半分ぐらいは真っ白に変化していました。

先生方が出勤される頃には、グラウンドはすっかり雪景色となり、何人かの先生方は渋滞と付近の事故で遅れるとの連絡が届くようになりました。今日は、午前中はニュージーランド修学旅行のまとめのために中学 3 年生の登校日としており、午後は高校 2 年生の「探究学習」面接試験を予定していました。しかし、天候を鑑み 8 時 50 分に臨時の職員打ち合わせを開き、生徒の安全と無事に帰宅できる時間を考えて、急遽『臨時休校』とした次第です。そこで、中学 3 年生と個別の面談などで登校している生徒を急ぎ下校させることとしました。多摩市の気象観測装置 POTEKA によれば、10 時現在の気温は 6.9℃、NNE の風でした。

気象用語には『特異日』という言葉があり、前後の日と比べて偶然とは思われない程の高い確率で、特定の気象状態(天気、気温、日照時間など)が現れる日のことを言います。英語ではこれを singularity、と呼んでいます。東京では、1 月 16 日や 11 月 3 日は「晴れ」の特異日」として知られています。一方で、3 月 30 日は「雨」の特異日」と

なっています。そこで、東京における過去の大雪上位 10 位を月ごとに集計すると、1 月が 4 回、2 月が 4 回、3 月が 2 回 という結果で最も遅い大雪は、私の経験にも残っている 1969 年の 3 月 12 日（最大積雪深 30cm）でした。今日の学校での最大積雪深は 7cm でした。

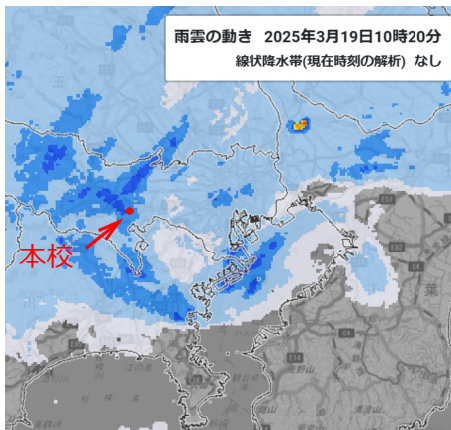
今日はここまでは積もる大雪とはなりませんでしたが、予想外の雪に通勤通学の方も驚いたことでしょう。因みに、春の雪のことを「淡雪(あはゆき)」「沫雪(あわゆき)」「斑雪(はだれ)」「牡丹雪(ぼたんゆき)」と呼んだりします。有名な俳句には…

淡雪のつもるつもりや砂の上 久保田 万太郎

という句があります。

「春の雪」とは、はかなさを表す言葉ですが、今日も天気予報通り午後になると雪も止み晴れ間が見えてきました。

校長 石飛 一吉



3月19日午前10:20 雨雲の動き
DATA: 気象庁レーダー・ナウキャスト
<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/?areaCode=206#lat:35.544519/lon:139.231110/zoom:9/colordepth:normal/elements:hrpns&slmcs>
(3月19日13:00 最終閲覧)



普段立ち入れない校舎屋上より(2025年3月19日10時頃)